

平成 26 年度  
第 4 回 対策地域内廃棄物処理業務(減容化処理)に係るアドバイザー委員会  
議事要旨

日時：平成 27 年 3 月 17 日（火） 13:00～15:00

場所：環境省東北地方環境事務所 福島環境再生事務所 南庁舎大会議室

出席委員(敬称略)

京都大学工学部 教授 工学研究科 都市環境工学専攻	米田 稔
岡山大学環境管理センター センター長	川本 克也
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター	
循環資源基盤技術研究室 室長	倉持 秀敏
研究調整主幹	高田 光康
全国都市清掃会議 技術部長	荒井 喜久雄

議事要旨

I 本日の検討対象施設

1. 川内村 7 トン/日 仮設焼却施設
2. 飯舘村（小宮）5 トン/日 仮設焼却施設

II 検討内容

1. 川内村 7 トン/日 仮設焼却施設  
冒頭、日立造船株式会社(以降日立造船と記載)より、これまでの運転状況等について説明があった。

(1) 焼却灰のセメント固型化について

委員より、焼却灰のセシウム ( $^{137}\text{Cs}$ ) の溶出濃度が基準値 (150Bq/L) 超であればセメント固型化処理を行うのではないのか、また、過去の試験結果はどうだったのか質問があった。日立造船より、基準を超えた焼却灰はあるが、要求水準書に記載がなかったため焼却灰をセメント固型化する装置がなく、仮設灰保管施設にて保管中で、今後環境省担当官と協議を行って処理方法を決定する方針であるとの回答があった。委員より、速やかに協議の上処理方法を決定するよう助言があった。

(2) 焼却残さの発生率について

委員より、焼却残さの発生率について質問があった。日立造船より、計画では20%としているが、これまでの実績ではおよそ10%程度と思われるとの回答があった。

(3) 焼却炉の立ち下げ方法について

委員より、立ち下げ時には燃焼が完結するまで800℃以上を維持する必要があるが、機械を運転したままの状態現場を無人にするのかとの質問があった。日立造船より、燃焼が完結し、立下げが完了するまで有人監視と操作を行っているとの回答があった。

2. 飯舘村（小宮）5トン/日 仮設焼却施設

冒頭、神鋼環境・神戸製鋼共同企業体（以降JVと記載）より、これまでの運転状況等について説明があった。

(1) 夜間に発生したバグフィルタ入口温度高の警報発報について

委員より、バグフィルタ入口温度高の警報発報が発生した原因について質問があった。JVより、焼却炉運転停止時に外気を吸い込んでバグフィルタ入口温度を調節するためのバルブが錆びて動作しなかったものとの説明があった。また、現在はバルブを2基設置しているため、万一片方が機能しなくても安全が担保されるとの説明があった。

(2) 飛灰のセメント固型化方法について

委員より、飛灰のセメント固型化におけるセメント等の調合割合をどのように決めたのか質問があった。JVより、試験室で基本的な混練条件（灰、セメント、水の比率）を決定し、その条件をベースに試運転時に実機にて成形性（流動性）と強度が両立する混練条件を検討し現在に至っており、今後も引き続き混練条件の最適化を図っていくとの説明があった。

(3) 地元貢献について

委員より、地元貢献として地元の人を何人採用しているか質問があった。JVより、飯舘村出身者4名を運転員として採用する等、地元貢献を念頭に業務を行っているとの説明があった。

以上